

令和6年度 徳島県立名西高等学校(全日制課程) 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
学 習 指 導 の 充 実	自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成	企画課	評価指標	① 授業評価アンケートでの、ルーブリックの資質・能力について、自分自身の向上を意識できた生徒の割合90%以上。（R5：97.2%）	評価指標の達成度	① 「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒になる」を意識して授業に取り組んだ生徒は95.3%で、ルーブリックを意識した生徒の取組がうかがえる。	総合評価 (評定) <	

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	自己評価		委員評価	今後の方針
生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立と安心・安全に向けた意識を高める。	生徒指導課 各学年主任	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	生徒心得の見直しを組織的に推進している点は良い。今後も生徒会が中心となり、生徒が主体的に活動に取り組めるようにしていったい。	生徒の主体性を育みながら、基本的生活習慣の確立と安心・安全に向けた意識を高めると共に、校則見直しを機として規範意識の育成を図る。声かけ指導などにより、生徒一人一人について把握し、必要な情報が教員間で共有が図れる体制をより一層推進する。
			① 遅刻者数を年間600人以下にする。 (R5：610人)	① 立哨指導や遅刻カードによる指導、また毎朝の声かけ指導などの取組により、遅刻者数は560名(1月末)で、昨年度の同時期から減少させることができた。	(評定) A		
		生徒指導課 各学年主任	② 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を年間10件以内に作る。(R5：9件)	② 登下校中の接触事故は5件であった。5件とも命に関わるような事故ではなく、軽傷の事故であった。	(所見) 遅刻者数、登下校の交通事故数の目標は達成できた。今後も基本的生活習慣の確立と安心・安全に向けた意識を高めるため、工夫改善を図りたい。		
			活動計画	活動計画の実施状況			
			① 登校指導や「遅刻ゼロの日」、「考査時の5分前登校」の取組みを充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個別に指導を行った。考査時は5分前登校も実施した。毎朝の立哨指導での声かけも行った。			
			② 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学方法別集会(年3回)、生活安全委員会による挨拶運動(月1回)、生徒会による挨拶運動(週1回)の実施。	② 登校時の立哨指導は複数名で毎日実施し、毎月の学校安全の日にも街頭指導を実施した。名西署と連携し、交通キャンペーンも実施した。3年生に対しては自動車運転免許取得説明会も開催した。			

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	自己評価		委員評価	今後の方針
人権教育の充実	自他を大切にする心や態度の育成	人権教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	石井町総ぐるみ人権啓発研修大会では、生徒たちが演奏や作品展示を行っていた。生徒の表情がとても明るく、地域住民と関わる中で、自信を高めている様子がうかがえた。また、人権課題に取り組む意欲が97%、いじめによる特別指導が0件と、十分目標が達成できた。	面談やカウンセリング、人権に関する意識調査やいじめに関するアンケートにより生徒の実態把握に努め、様々な機会を捉えて「自他を大切にする心や態度の育成」を図る。
			① 3年生対象の「人権に関する意識調査」で、人権課題に取り組む意欲を示す回答を95%以上に作る。(R5：100%)	① 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取り組んだ」を合わせて97%の回答を得ることができ、目標を達成できた。	(評定) B		
		人権教育課	② 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止に努め、いじめによる特別指導を0件にする。(R5：1件)	② いじめによる特別指導は0件だった。いじめ防止委員会(ハートフル委員会)を結成し、主体的にいじめと向き合い行動する生徒の育成に努めた。	(所見) いじめによる特別指導はなかったが、その継続に向けて、日々の教育活動の中で人権を尊重し「自他を大切にする心や態度の育成」のための指導を一層充実させていく。		
			活動計画	活動計画の実施状況			
			① 人権学習HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行うことにより、多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない意識や態度を育てる。	① 人権学習HR活動を各学年で6回実施、人権映画鑑賞会では平和と生命の尊厳等について考える映画を鑑賞した。講演会では、自他を大切にするコミュニケーションについて学ぶ機会をもてた。			
			② いじめに関するアンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	② アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、いじめ未然防止に努めた。			

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針	
キャリア教育の充実	社会的自立のために必要な資質・能力の育成	進路指導課	評価指標	① 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上とする。（R5：95%,93%） ② 各学年での志望理由書に関する取組に対して、アンケートによる生徒の満足度を85%以上にする。（R5：93%） ③ 早い段階から、自らの進路に向けて主体的に取組む高い意識を持った、5%程度の生徒集団をつくる。	評価指標の達成度	① 最終進路先に満足した生徒の割合が98.6%、進路指導に満足した生徒の割合が94.9%であった。 ② 進路講演会や志望理由書模試等を行い、自らの進路に真摯に向き合える取組を行った。生徒の満足度は92.2%であった。 ③ 「入試問題研究部」への参加者数は2年生6名、1年生2名であった。また、3年生の数名が進路決定後も冬季補習に参加するなど、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。	総合評価	通学区域性の見直しの議論が進み、令和11年に撤廃することが決定した。芸術科と定時制をもつ特色ある名西高校を地域に残していく。そして名西高校の生徒が様々な進路の選択肢を得られるよう、「入試問題研究部」のほか、学力をつける取組を充実させてほしい。エシカルの探究活動では、フィールドワークを実施したことで、生徒の物事の捉え方や調査内容が深化し、発表においても大きな成長が見られた。今後は地域の経営者などとつながって、地域の方々から学ぶ機会を作っていってほしい。	社会的自立のために必要な資質・能力の育成に求められるよう、個に応じた進路指導、志望理由書に関する取組、探究活動等を通しての情報収集力や自己表現能力の開発に継続して取り組む。講演やフィールドワーク等とおして社会でどのような仕事があるかなどを学び、目標設定を行いそれに向かい努力する姿勢づくりをおこなってゆく。また、より高い意識を持った生徒集団の育成に向けての生徒への働きかけを積極的に行う。
					(評定)	A			
					(所見)				
		企画課	④ 1年時：エシカル消費についての課題を見つけられている。2年時：グループ研究を行い、発表ができる。3年時：個別研究を行いレポート作成ができる。（R5：各学年における目標を達成）	④ 1年時は外部講師によるエシカル消費基礎講座を9講座開講した。そこで得た知識や課題をもとに、今後の探究活動の計画を立てた。2年時はグループでの探究活動を行った。3年時は、個別探究を行い、レポート作成とスライドによる発表を行った。	進路ガイダンスや進路講演会、志望理由書に関する取組、就職希望者への職場見学、「総合的な探究の時間」での取組等を充実させることができ、様々な進路選択をする生徒がいる中で「社会的自立のために必要な資質・能力の育成」に向けた指導を行うことができた。				
		進路指導課	活動計画	① 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。 ② 志望理由書に関する取組を2・3学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導、講演会を経て、志望理由書模試を実施する。 ③ 部活動の入試問題研究部として、学業に関して組織的・定期的な活動を行い、切磋琢磨できる集団を育成する。	活動計画の実施状況	① 進路指導室や就職指導室を活用して、生徒からできるだけしっかり話を聞きながら進路相談に応じた。 ② 志望理由書模試の初回を2学年3学期に、リライトを3学年1学期に実施した。学習教材「マスターノート」を用いての事前指導、外部講師を招いての講演会を行った。 ③ 週3回の継続的な活動を行い、主体的に取組むことができた。進路実現に向けた意識付けにつながっている。			
		企画課	④ 「エシカル消費基礎講座」による知識の習得、グループによる探究活動、発表、レポート作成などの活動をより一層充実させる。	④ 全学年を通じて、情報収集や発表資料の作成の際には、1人1台端末を活用した。2年時は全グループに校外でのフィールドワークを課したが、それは発表内容に厚みを与えた。					

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	自己評価		委員評価	今後の方針
文化芸術活動の推進	芸術科の魅力の積極的発信と生徒の国際的感覚・視野の醸成	芸術科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	名高フェスティバルはメディアによる報道もあり、昨年度よりも来場者が増え、芸術科の表現力の高さを多くの方に発信できた。芸術科だけでなく普通科の生徒の中も演奏や作品展示に参加しており普通科の魅力化にもつなげることができた。Webページの更新回数が減っているが、名西高校にとって広報活動は大変重要であるので、今後は更新回数を増やすよう努めてほしい。ただしWebだけが広報手段ではなく、地域で活動し日頃の活動の成果を披露することも大きな魅力発信となる。コンサートを観て感動したという声をよく聞くので、これからも地域のイベントに積極的に参加してほしい。	webページのシステムの更新を機に、より効果的に情報発信を組織的に行う為の見直しを行い、情報発信の機会を増やして生徒の活躍を広報する。また、芸術科だけではなく、普通科の生徒の活躍や学校生活についても更新回数を増やし、名西高校の魅力を感じてもらえるよう内容の充実を図る。名西高校フェスティバルは毎年動員数が増加している。生徒の活躍を直接見てもらえる機会なので、さらなる動員数の増加のための広報のあり方や、内容の充実に取り組む。
			① 「名西高校フェスティバル」の入場者数を1,500名以上にする。(R5:1,821名)	① 「第4回名西高校フェスティバル」をあわぎんホールで開催した。演奏会では、音美書コースのコラボでミュージカルや書道パフォーマンスを披露した。来場者数は2,116名であった。	(評定) B		
			② 芸術科の取り組みを本校Webページで発信し、年間80回以上更新する。(R5:91回)	② Webページ更新回数は39回であった。芸術科各コースの行事や日々の活動等の取組を案内・広報した。	(所見) 効果的な広報により「芸術科の魅力の積極的発信」を行うことができた。名高フェスティバルでは、あわぎんホール利用により、より多くの観客を得ることができ、体験学習等でもフェスティバルを見て希望してくれる生徒も増えている。昨年度末に本校から台湾の羅東高級中学へ生徒が訪問して見聞を広め、本年度の羅東高級中学が本校へ訪問する際に積極的にサポートを申し出るなどの積極性も見られるようになった。		
		企画課	③ 高文祭で全国大会に3部以上、各種大会・コンクールでは全国規模の入賞・入選数150以上にする。(R5:4部門、入賞・入選153名、2団体)	③ 全国高等学校総合文化祭(岐阜大会)に3部門、近畿高等学校総合文化祭(福井大会)に4部門出場した。全国規模の入賞・入選者数は251名2団体であった。			
			④ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合80%以上。(R5:92.3%)	④ 「国際交流への意識が高まったか」という質問に、「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に答えた生徒の割合は93.8%であった。			
			活動計画	活動計画の実施状況			
		芸術科	① 内容を充実させ、各種メディア、オープンスクール等本校主催行事、本校Webページなど、多面的な広報活動を展開する。	① 「第4回名西高校フェスティバル」では、発表内容の充実や各種メディア、HPへの掲載など、生徒の魅力が地域に発信できるよう積極的な広報活動を展開した。			
			② コンクール等での成果や生徒作品、芸術科行事や日々の活動の様子を、積極的に情報発信する。	② 各コースでWebページ担当者を決め、効果的な情報発信を心がけた。			
			③ 作品の応募やコンクールへの出場、大会参加を積極的に行い、粘り強く指導することにより、生徒の資質能力を伸ばす。	③ 県内外の展覧会やコンクールに積極的に出場・出品した。本年度新規に出場・出品した展覧会やコンクールもあった。生徒の持つ可能性を最大限に伸ばす指導を心掛け、優秀な成績を収めることができた。			
		企画課	④ 生徒の国際理解を深めるために、講演会等の開催や海外姉妹校との交流活動を行う。	④ 昨年度3月に13名の生徒が台湾の姉妹校である羅東高級中学を訪問した。今年度2月20日に羅東高級中学が本校を訪れる予定である。10月に外務省「高校講座」を本校体育館で開催し、広く世界とのつながりを意識することができた。			

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
開 か れ た 学 校 づ く り の 推 進	地域社会への積極的 魅力発信、生徒の参画、 地域貢献の充実	総務課	評価指標	① P T Aや同窓会と連携をとりながら、名西高校の歴史や魅力を効果的に発信し広報できるようにする。（新規）	評価指標の達成度	（評定） B	フィールドワークやこども食堂、サイバーセキュリティ班の活動、留学生との交流など、家庭では体験できない活動を行っているのは非常にありがたい。また、芸術科を中心として、高川原小学校でのメモリアルウォールの制作、石井町町制施行70周年記念式典での演奏等、石井町での様々なイベントへ参加することで、生徒同士や地域の方々との関わりが生まれ、名西高校に親近感を抱き、名西高校へ行きたいという気持ちにつながっていくと思う。これからも石井町の様々なイベントに参加し、名西高校の良さや特色を発信してほしい。オープンスクールや体験入学も、中学生の進路決定に重要な役割を果たすので、ここでもしっかりと魅力発信をお願いしたい。	中学校への出前講座などや地元のイベントへの参加など、地域の交流活動に継続して取り組む事で、生徒の主体性を育む活動を育みながら、社会への積極的参加や地域貢献について考える機会を増やしたい。また、こうした生徒の活動を通し名西高校の魅力に気づき、生徒の進路選択の一つになることにつなげたい。
		生徒指導課	② 「名高パトロール隊」の活動を年間30回以上実施する。（R5：31回）	② 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど31回、意欲的に活動した。	（所見） 「名高パトロール隊」や地元警察署と連携した交通安全キャンペーン、地元中学への「サイバーセキュリティ」出前講義、芸術科による地域での活動など、様々な形で学生の作品や活動について積極的な発信を行った。			
			③ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。（R5：2回）	③ 春と秋の2回、全国交通安全運動期間に名西署等と連携して、街頭キャンペーンを実施することができた。	また、エシカル子ども食堂へ参加など、生徒の主体的なボランティア活動への参加も増え、地域貢献の充実について行うことができた。			
		企画課	④ 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上。 （R5：校内で企画したものへの参加37.6%）	④ 自主的にボランティア活動を行った生徒は全校生徒の46.6%だった。				
		芸術科	⑤ 中学生を対象とした行事や地域における芸術活動の充実を図る。 （R5：オープンスクール等参加者数185名、体験入学335名、芸術科進学説明会137名）	⑤ 中学生、保護者、中学校教職員を対象とした行事の参加者数は、オープンスクール121名、体験入学251名、芸術科進学説明会106名であった。				
		総務課	活動計画	① 藤花同窓会と連携して、できるだけ多くの会員に広報を行い、活動の充実を図る。	① 役員会や総会、懇親会において、その都度生徒たちの活躍を報告してきた。来年度はweb等を活用し、もっと多くの方に本校の魅力を知ってもらいたい。			
		生徒指導課	② 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携しての、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動、「サイバーモデル校」としての地元中学校での出前講義を実施する。	② 清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動、などを実施した。地元中学校での「サイバーセキュリティ」出前講義も生徒主体で実施することができた。3中学校で実施				
			③ 名西署と連携を図り、生活安全委員会が交通マナーアップのためのキャンペーンを実施する。	③ 秋の交通安全運動では、美術部が名西署、交通安全協会と連携して制作したのぼり旗を用い、キャンペーンを実施した。				
		企画課	④ 参加方法等を掲載したリーフレットを配布し、生徒がより参加しやすいように工夫するとともに、個別の声かけをする。	④ 本校関連のボランティア活動をまとめたリーフレットの配布や、H Rでの参加の呼びかけを組織的に行った。				

		芸術科	⑤ 地域での文化祭や展覧会等の行事において、生徒の作品制作や演奏会への協力を図る。	⑤ 美術（高川原小学校プール壁画制作や名西郡消防署新設工事壁画デザイン）音楽（中学校への訪問演奏や石井町藤ホールこけらおとし等）書道（高川原分館や病院での常設作品展示）各コースが積極的な地域貢献活動を実施した。			
--	--	-----	---	---	--	--	--